

晦冥而七日之後天晴於鹿兒島ノ信爾村ノ海沙石自集化而三島ト成炎氣鑄形勢ノ如ク相ツラナル、望見レバ四阿アマノ屋根ニ似タリ、爲島ノ埋ル物、民家六十二區、口十餘人也ト云、

(和漢三才圖會陸奥六十五) 松島 在仙臺之東七里

海中有小嶼、數百曲洲環浦奇峯異石、寶是天下絕景、而其島或似地藏、毘沙門、二王、大黑、惠美酒、布袋等之像、或肖太鼓屏風甲冑等之形者、不悉記、雄島、離島、千貫島、松島、殊名高故以松島爲總名、貴賤乘小舟、巡廻遊宴、凡不經十餘日者不盡見也、

(東遊記後編四) 松島

只二人鹽竈の浦より松島の雄島まで、二里半の所を賃錢纔に四百文にて、小船一艘を買切漕出す、天氣殊にのどやかにて、風さへ靜なるは天幸を得たりといふべし、東に向ふて行くに岸より纔に五六丁の所に小き島あり、辨天島といふ、夫より十八町にして、かの名たる離が島あり、右の方に東宮濱といふ里あり、向ふの沖の切戸の出崎を湯が崎と云、左の方崎山と云、皆漁家なり、離が島より左に折て舟の頭北の方に向ふ、東の方に島々連れり、大なる島近く隔りて、其島の切戸より東海を見る、其大なる島より外にある島々、我舟の通るに従ふて、北よりして南に移る、小き切戸より數々の島々を繰出す事の如きかゝぐるを見る如く、又芝居杯の引道具をみる如し、其島皆甚大ならずして色々の形あり、多くは皆其形を以て島の名とす、地藏島、鳥帽子島等、其形尤よく似たり、其外、

筆捨島	沖唐戸島	松の島	水島	兩犬島	鍋島	親船島	屋形島	二子島	鐘かけ島
蛇島	鼓島	太鼓島	青海島	汐干島	松が浦島	橋かけ島	旗が島	内裏島	后島
都島	二王島	鹽燒島	物言島	主水島	柵島	箕輪島	鎧島	籠島	化粧島
島	あぶみ島	貝の島	伊勢島	小町島	昆沙門島	大黒島	夷島	ふくら島	鞍懸